

会 議 記 録				
会 議 の 名 称		決算特別委員会 総務文教分科会		会議場所 第3委員会室
				担当職員 藤村
日 時	平成24年9月19日(水)		開 議 午前 10 時 30分	
			閉 議 午後 4 時 31分	
出席委員	◎堤 ○齊藤 並河 中村 田中 西村 日高 木曾 石野			
執行機関出席者		今西議会事務局長 藤村議会事務局次長 山内政策推進室長 竹村政策推進課長 田中安全安心まちづくり課長 柏尾政策推進課参事 竹井企画管理部長 俣野夢ビジョン推進課長 内田秘書広報課長 中川人事課長 木曾契約 検査課長 畑契約検査課参事 山内秘書広報課副課長 浦夢ビジョン推進課副課長 片山人 事課副課長 門生涯学習部長 桂市民協働課長 仲田市民協働課副課長 小林人権啓発課長 桂人権啓 発課参事 福田市民協働課市民活動推進係長		
事務局		今西局長 藤村		
傍聴	可・否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名

会 議 の 概 要

- 1 堤委員長 あいさつ 開議
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査

<議会事務局>

- (1) 第9号議案 平成23年度一般会計決算認定について

議会事務局長 あいさつ

議会事務局次長 決算に関する主要施策報告書に基づき、順次説明（歳入、歳出一括）

<質疑>

<並河委員>

会議録は65部作製だが、配付先は。

<議会事務局次長>

議員、事務局、議会図書室、図書館、京都府議会の図書室等に送付している。

<西村委員>

①議会だより、インターネット中継は入札による契約か。

②政務調査費の交付先は。

③会派でのコピー使用目的を分類することについて説明を。

<議会事務局次長>

①議会だよりは7社の市内業者で入札。インターネット中継は3社で入札。対応できる業者がないため市外業者。

②政務調査費は会派に交付する。政務調査費上は1人でも会派と認めているので

「燃える亀岡市民クラブ」は井上議員。Kameka.org は、酒井議員。酒井議員は2月から緑風会で交付。

③会派でのコピー請求は年2回でこれまで政務調査費で支出いただいていた。しかし、中には個人での利用、政党活動での利用等があり、そういう場合は請求書を分けてさせていただくもの。

～10:55

(政策推進室入室)

<政策推進室>

(1) 第9号議案 平成23年度一般会計決算認定について

政策推進室長 挨拶

政策推進課長、安全安心まちづくり課長 決算に関する主要施策報告書に基づき、順次説明(歳入、歳出一括)

<質疑>

<並河委員>

P7、総務事務経費、市政アドバイザーの弁護士、不動産鑑定士兼公認会計士の委託先は。また、土地処理に係る調査業務の委託先は。

<政策推進課長>

市政アドバイザーは大江橋法律事務所の平野弁護士と藤原総合不動産鑑定の藤原鑑定士に委嘱。土地処理に関する業務委託は大阪弁護士会の秋田仁志弁護士と河良彦公認会計士にしている。

<西村委員>

P7、カーボンマイナスプロジェクトはそろそろ技術的に確立し進んでいると思うが、もっとその技術を朝市連合会を通じてでも広げてもらえないか。一部の人だけがやって利益を上げているという声も聞く。

<安全安心まちづくり課長>

マツモトで販売を始めたがまだ実験の段階。安定的な供給のためには生産者の安定を図るのが課題であり、それには炭の確保が課題。竹を炭にする作り方、その検証もあるので今の所まだ何百人の人にしてみようところまで進んでいない。販売実験も進めているのでその結果を見ながら順次進めていきたい。

<石野委員>

①P17、JR山陰本線関連経費について、馬堀駅への快速停車の要望も出ています。中どのような活動をしたのか。

②P7、大規模スポーツ施設について、そろそろ場所決定される頃かと思うが現況は。

<政策推進課長>

①大きな活動は出来ていない。千代川駅、馬堀駅の関係もあり、全体の利便性の向上をお願いしている。線路沿いの草についても連絡している。大きな問題については場面場面でやっていきたい。

②まだいつ決まるか未定。秋とは聞いているが正式にはわからない。

<木曾委員>

P 7、土地処理に係る業務委託について、報告書を作ってもらったが期間はどれだけかかったのか。

<政策推進室長>

1月6日付けで委託契約し、2月末日までに報告書をまとめてもらうよう依頼した。

<木曾委員>

秋田弁護士と河公認会計士は生駒市にも入られていた。100条委員会が設置され、やり取りされたということを承知で依頼したのか。

<政策推進室長>

初めは顧問弁護士に相談に行ったが、顧問弁護士以外の外部の有識者ということで紹介いただいた。生駒市の土地開発公社に関して経験されたこともあるし、公社についての知識もお持ちなので推薦いただいた。生駒市の調査の内容の詳細までは知らない。

<木曾委員>

会派で生駒市に視察へ行った。この弁護士と現市長はオンブズマンの立場で100条委員会をされて市政をひっくり返した政治的背景があったと聞いた。今回の調査に適切な方であったのか。

<政策推進室長>

できれば市側の立場で判断してほしいという思いはあったが、事実を検証する必要があるため外部の方にした。受けられる限りは厳しい人だと聞いていた。生駒市では市長と議長を辞任に追いやられた人だが、あえてお願いした。秋田弁護士は「罪人を作るための調査でなく事実関係を明らかにするための調査をする。」というスタンスの方。原因、事実関係を明らかにすることを依頼した。

<木曾委員>

依頼後、どういう資料で調査されたのか。具体的に説明されたい。報告書で気になるところは、「わからない点もたくさんある。もう少し詳しくする必要がある。」とあった点。書類だけで調査されたのか。

<政策推進室長>

住宅公社会長である市長、土地開発公社前理事長等関係人の事情聴取をされた。当事者の元常務理事には3度された。書類は、決算書、伝票、通帳、議事録すべて見られ、公社の約款等と照らし合わせ、どこに問題があるのかを明らかにされた。

<木曾委員>

84万円は当初の契約金額か。それとも実質経費として支払ったのか。

<政策推進室長>

交通費込み、事務費込みの100万円以内で依頼した。書類等見られる中で18年と20年の2つの取引であり、それほど複雑な案件ではないということで先方から84万円の提示をいただいた。

<木曾委員>

報告書の指摘についてどの程度改善したのか。

<政策推進室長>

再発防止についてできることは実施した。公社の体制整備も指摘いただいたが小さい職場であり、独自の内部通報制度や研修実施も難しいので市の研修等に参加いただくことで呼びかけている。市からのチェック体制もきっちりしなければいけない。公社にまかせっきりという声もあったので市職員が公社の業務内容を把握してアドバイスすることを心掛けていく。

<木曾委員>

外郭団体に派遣された職員の法令遵守について記載されていたがそれは出来ているのか。

<政策推進室長>

十分とは言えないかもしれないがやっており、今後もやっていく。

<中村委員>

①P7、カーボンマイナスプロジェクトについて、マツモトに並べられてどんな反響があったか。

②長尾山買戻しのための市債は何年償還か。

③のどかめロードの手数料収入にコンビニ、漬物店も入っているのか。金額は。

<安全安心まちづくり課長>

①マツモト荒塚店でコーナーを設けている。反響は、値段が高くなければそちらを選んでいただいているのが現状。生産者はマツモトの他の価格を参考に値段をつけておられる現状。現在15名の農家が育成会を立ち上げて出荷している。今後もっと広げていきたい。まだまだ売れるだろうと思っていただいている。今後、学校給食へも広げていきたいので動向を見て生産者と店舗数をふやしていきたい。アジアからも視察に来られている。徐々に広がってきているかと思う。

<政策推進課長>

②10年返済、2年据え置き。

③この2店舗はJRの所有物件であり、亀岡市には入ってこない。

<中村委員>

カーボンマイナスプロジェクトについて、学校給食にぜひ積極的に取り入れられるよう要望する。

<田中委員>

①P7、市政アドバイザーの2人はどれくらい活動されているのか。具体的にアドバイスいただいた事案はどれくらいあるのか。

②P9、長尾山市民の森整備の見通しは。

③バス交通に関してアンケートの国庫補助が採択される見通しは。

<政策推進室長>

①本部会議出席は1回。その後は随時相談している。特に1月からは土地取引の関係で関連して相談した。

②篠町自治会を中心に広く市民に呼びかけ、整備していただいている。最低限必要な施設としてH24予算でトイレ設置と入口スペースの確保を措置した。今後は「長尾山市民の森」として農林振興課が所管する。

<政策推進課長>

③現在来年度の予算をつけてもらえるよう京都府と協議中である。

<日高委員>

バス交通について、コミュニティバスはあまり利用者が増えていないが、どういう計画を持っているか。

<政策推進課長>

毎年何人増やすという計画は持っていない。効果は出ていると思う。コミュニティバスの要望は強い。ふるさとバスは利用者は横ばい状態だが地域の様々な要望がある。アンケートで皆様の考えをお聞きし、いいバス交通にしたい。

<日高委員>

来年度全市的な調査をすると聞いているが、その後、来年度中に計画を作るのか。

<政策推進課長>

集計等で1年ぐらい見ている。3年ぐらいの計画になるかと思う。

<並河委員>

P10、コミュニティバスに関わって、ガレリア、市立病院等への要望が強いが今後の増車の計画は。

<政策推進課長>

コミバスの1台増車は念頭にある。それも踏まえてアンケートを採る。並河駅からガレリアとなるとJRもあり、他のバスも走っている。地域間のバランスもありご理解願いたい。

<並河委員>

市立病院に行きたくても行けない人もいる。病院も含めて公共施設の利便性を高めるということではどうか。

<政策推進課長>

地域によっていろいろあるかと思う。皆様の声をお聞きし少しでも良くなるようにしていきたい。

<齊藤副委員長>

丸山、西別院工業団地用地の今後の買戻しの見通しは。

<政策推進課長>

土地開発公社の健全化計画は5ヶ年計画で今年度が最終年。48億円の簿価を28億円まで減らしていく当初計画が現在23億円弱まで抑えられる計画になってきた。丸山は火葬場の事業が始まると補助事業の対象にもなるし、西別院は別途売却も視野に入れて考えている。

<木曾委員>

コミバスもふるさとバスも府の補助金が入っている。利用促進についてどれだけPRしているのか。増便の希望は強いが実際にはあまり乗っておられないこともある。財源を確保して運行するのはいいが後のフォローも必要。片や増便希望があれば、一方では空で走っているところもある。利用促進をしていかなければならないが、どのように考えているのか。

<政策推進室長>

大変難しい問題である。先般も議会の特別委員会の御意見をお聞きした。利便性が高まれば乗ると市民の方は言われるが本当に乗られるのか。必要な時には乗られるが、常時乗られるかというところかと思う部分もある。先に利便性を高めて乗客を増やすか、乗客を増やして便を増やすのか。60～70の利便性を100にという要望もあれば0をせめて30にという地域もある。そういう格差は解消する方向でなければと思う。乗っていただくためのサービスやPRがもっと必要。特別委員会からもご意見をいただいているし、議員からもお知恵を拝借したい。

<田中委員>

P9、自動車学校跡地の不動産鑑定はどこがしたか。

<政策推進課長>

2社。一新社と佐藤鑑定事務所。

<堤委員長>

P9、亀岡防犯協会補助について、その中から地域で活動いただいている青パト(防犯推進委員)に少しずつ補助がある。防犯協会は市からの補助金以外にお金が入っているのか。

<安全安心まちづくり課長>

収入は亀岡市からの30万円と各参画団体からの分担金、協会の会費負担金で合計633,000円の予算になっている。支出は主に啓蒙啓発活動。

<堤委員長>

防犯推進委員は防犯協会の下部組織で各地域でガソリン、ジャンパー等自前で活動いただいている。地域で地道な活動をされているところへ手当ができるよう来年度予算を検討されたい。

<安全安心まちづくり課長>

地域の安全安心を見守る活動がセーフコミュニティの原点である。考えていきたい。

(政策推進室 退室)

～12:02

(休憩)

13:00～

<企画管理部>

(1) 第9号議案 平成23年度一般会計決算認定について

企画管理部長 挨拶

各課長 決算に関する主要施策報告書に基づき、順次説明(歳入、歳出一括)

～13:47

<質疑>

<並河委員>

①P13、特別職退職金の積算根拠は。府下ではどの位置にあるのか。

②P17、キラリ亀岡おしらせの配布状況は改善されたのか。

<人事課長>

①市長は本給99万円×4年間×支給率550/100=2,178万円。山崎副市長は787,000円×4年×325/100=1,023万1,000円。府下でどの位置にあるかは把握していない。

<秘書広報課長>

②自治会配布が基本。自治会未加入者への補完措置として市の公共施設、JR、コミバス、サティ、マツモト、ファミリーマート等々に置かせていただいている。できるだけ場所を増やしていきたい。郵便局にも置かせていただくよう協議中。

<並河委員>

市長退職金は宇治市より人口が少ないのに高い金額になっている。確認されたい。

<木曾委員>

①P11、行革の内容がどの程度進んでいるのか。実績は。

②P18、地域こん談会について、マンネリ化している。関係する部長のみの出席となっていることはいいが、地域の役員だけでなく、広く市民との懇談をすればいいと思うがどうか。

③P20、第4次総合計画の目玉としてシンボルプロジェクトチームが出来ているが、具体的にどう推進したのか。

<夢ビジョン推進課長>

①行革70項目のうち、54項目達成した。H22も同様の達成率であった。歳出面では事務の見直し、改善、管理職手当の減額、一般事務事業における経常経費の見直し削減等で効果を上げた。外郭団体については、交流活動センターの解散、公益法人化等の組織強化が図れてきた。本年度4月1日から新たな指定管理者を選定することでH23に選定委員会を設置し21施設12指定管理者を選定し、体制を整えた。

③シンボルプロジェクトについて、3つの動きがあり、自然文化・時代継承のプログラムでは23年度では総計趣旨を踏まえて、委員のフリートーキングから始めた。その他住み心地向上、にぎわい創出ということでそれぞれ会議を重ねてきた。自然文化・時代継承については、環境、エネルギー、新資料館等についてまとめようとしている状況。住み心地向上については、小学校4年生以上が安心して過ごせる居場所づくりについて考えている。にぎわいづくりについては情報発信ということでFMラジオ等コミュニティラジオの話が出ている。観光面ではレンタル電動自転車等賑わいを出していこうと議論が進められている。今後来年度の予算に向けて、議論が反映できるようにチームリーダーに投げかけている。

<秘書広報課長>

②H23、24は特別職と懇談に該当する部長が出席している。広く参加をいただき地域の声を聞かせてほしいと思っているがどうしても地元での人選が団体の長等役員になる。内容についても数年前から要望だけではなくまちづくり提案型の懇談にしていきたいとお願いしている。春の第1回目の自治会長会で地域こん談会についての意見も聞き、アンケートも書いてもらったが、毎年開催を希望する声が多かった。大事な会合であり、市の幹部と自治会役員が顔を合わす唯一の場であり是非とも開催してほしい等の意見があった。中には陳情、要望は別の場だという意見もあったが、こういう意見を聴きながらより良いこん談会としていきたい。子育て団体等との懇談については出前タウンミーティングで実際に担当する部署が膝を突き合わせて話をしている。このような場も利用し広聴活動を進めていきたい。

<木曾委員>

①P16、指定管理者がスタートしてからほとんど固定されているように感じる。それを見直していかなければ制度導入の本来の意味がないのでは。競争の原理を働かせてより高めていくようにしなければならない。

②シンボルプロジェクトはこのペースで一定の成果が上がるのか心配。もう少しスピード感を持って内容のあるものにしなければ第4次総計の目玉とならないのでは。

③P18、地域こん談会は陳情、要望なら文書ですればいい。例えば篠町のようにまちづくりをどうしていくかの提案型のこん談会にすべきと思うがどうか。

<夢ビジョン推進課長>

①H23は21施設12指定管理者。一定固定化の傾向は見受けられる。例えば亀岡会館ならライフパートナーと他の市外業者が手を挙げられた。外からの業者が入ることによって落語会、映画会等開催され、刺激ある内容になっており、効率的な施設の運営につながっているかと思う。制度のいいところを生かしながら活性化を図らなければいけない。結果としては固定化したところが手を挙げられた。ご指摘は受け止める。

②シンボルプロジェクトは行政への提案、市民と行政の協働の取り組みへの提案、メンバーそのものが進める事業の3パターンある。ハード面での目玉もあればソフ

ト面のものもある。2年目を迎えているのでスピード感を持って進めることは事務局からも言っているが、実際にはいたり戻ったりの議論がある。チームでは5年のスパンで3年目に事業、4年目に見直し、5年目には形を整えるという風にされているのでご指摘の点は今後も各チームリーダーと詰めていきたい。

<秘書広報課長>

③5～6の自治会は陳情、要望については文書で出されている。アンケートの結果、1箇所以外は継続の希望であり、自治会連合会として継続の結論をいただいている。

<木曾委員>

指定管理者の他市の状況は充実している。いいところを取り入れて活用できるように見直しをされたい。要望。

<西村委員>

①広報紙の配布について、府の広報紙はシルバー人材センターがポスティングしている。それと一緒にしてはどうか。

②P19、自然エネルギー活用調査研究委託業務の委託先はどこか。本市は太陽光で行くと決めた根拠は。水力、バイオについての評価はどうだったか。本市は日照時間が短い。太陽光は日照時間の短い所では赤字になるが、そのあたりの考えは。

<秘書広報課長>

①H24年4月から府民だよりをポスティングされている。宇治市等の南部は以前からポスティングされており、北部でも採用しようと思われ、亀岡、福知山、綾部の3市で実施。シルバー人材センターがしっかりした状態であるところは受けている。単価は高く、1部14、07円。現在の新聞折り込みは6、3円。倍以上。府民だよりと抱合せてもあまり安くならないと聞いている。今後の検討課題であるが府民だよりと合わせてとなるとキラリ亀岡についてであり、お知らせは従来通り自治会を通じてとなる。

<夢ビジョン推進課長>

②指名競争入札し、地域計画建築研究所が落札。日照時間の調査の結果、京都市の1年間の日照時間が1,789時間（気象庁データ）、亀岡市が1,853時間（農林水産土づくりセンターデータの1985年から2009年までの平均）で、太陽光は京都市にも劣らない。住宅への25万円／1KWの補助を続けて地産地消のエネルギーとしていきたい。水力は水利権の問題等々あり、可能箇所の調査を今後続けていかなければならない。バイオは自然エネルギーより再生可能エネルギーになるので今回の調査には入っていない。

<中村委員>

①P18、地域こん談会について、実施の時間、女性参加がほとんどない等問題がある。もう一度自治会と十分協議され考慮されたい。女性参加が少ないということは女性の意見が吸収できないということかと思うがその点の考えは。

②P19、自然エネルギーについて、京都府北部の方で耕作放棄地に太陽光を設置する記事があった。農地転用せずに利用できる方法はないか。事業として考えているものへの補助金の考え方は。

<秘書広報課長>

①夕刻、土日の開催は地域の行事と重なることが多いため厳しい所もありご理解願いたい。女性参加はそれぞれの自治会でお世話になればありがたい。

<夢ビジョン推進課長>

②本市も市有地にメガソーラーの候補地としてお願いしたがいい返事ではなかった。個人宅への補助と、今後は工場とか事業所で設置される場合の支援制度の検討

を掲げている。4MGぐらいの分散型のメガソーラーをしていきたい。

<田中委員>

地域こん談会について、時間は地元が選ばれるのであるから地元要望に沿うようにしたらいいと思う。

①P14、小規模修繕工事の課毎の内訳は。

②P15、健康管理について、現在心の病で休職している人はいるか。いるなら何人か。

<契約検査課長>

①人権啓発課1件、総務課2件、自治振興課1件、環境政策課2件、こども福祉課2件、建築住宅課14件、教育総務課9件、上下水道総務課2件の計33件。

<人事課長>

②現在2名。

<田中委員>

①全体的に見れば修繕料はかなりの額になる。各課発注もあり、全体的には把握していないかもしれないが制度の活用を積極的に働きかけられたい。

②P15、入札・契約事務改善及び職員倫理確立等検討委員会は5回開催したが改善された点、入札結果に表れた点はあるか

<契約検査課長>

①H23は50万円以下の工事が500件発注され、額は約4,000万円。そのうち小規模登録業者に発注されたのが33件で約380万円。業務に支障をきたす修繕は計画的に行うが、その場合小規模修繕の範囲を超えるもの、突発的な修繕は施工業者や保守管理業者によるものが多い。道路等の修繕は早急な対応が必要のため建設工事業者に随意契約により発注することが多い。利用を呼び掛けている。

②入札制度についての改善が提言された。今年度改善した点は、最低制限価格の基準を見直し、事後公表している。予定価格は引き続き職員、受注者のコンプライアンスの確立が図れるまでの間、事前公表を継続する。業者の不当要求については、公表制度を検討中。不良、不適格業者の指名停止は、9月から京都府が厳格化されたのでそれに準じてやっていきたい。受注者のコンプライアンス確立に向けた業者研修会を9月に実施した。総合評価入札制度を今年度中に導入するよう検討中である。

<人事課長>

先ほどのメンタル面での休養者は3名。訂正する。

<石野委員>

P18、出前タウンミーティングについて、件数の前年度比は。分析は。

<秘書広報課長>

H22は13件、H21は17件で増えてきている。最近の傾向としては老人介護、地域防災に係る内容が多い。

<田中委員>

先ほどの「コンプライアンスの確立されるまでの間」とは職員側か、業者側か。

<契約検査課長>

両方である。

<田中委員>

本来コンプライアンスを守るべき職員について「確立されるまでの間」とは何とも淋しい、悲しい話である。

<並河委員>

入札について市内業者を優先的にということだが落札者の市内市外の内訳は。

<契約検査課長>

手元に資料を持ち合わせていないが、ほとんどが市内業者。登録数が少なかったり、市内業者で対応できない特殊なものは市外業者だがごくわずか。コンサルタント業務は市外発注している。

<日高委員>

P19、職員の政策研究に係る研究費補助は個人へか。

<夢ビジョン推進課長>

基本的には担当業務以外の研究を申請し、承認、支出している。個人の場合もグループの場合もある。

<木曾委員>

P14の入札に係り、暴力団排除条例が来年度から施行されるがその取り組みは始まっているか。

<企画管理部長>

条例制定の主旨を踏まえて整理の方向で対応する。

(企画管理部退室)

～14：38

(休憩)

15：00～

<生涯学習部>

(1) 第9号議案 平成23年度一般会計決算認定について

生涯学習部長 挨拶

各課長 決算に関する主要施策報告書に基づき、順次説明(歳入、歳出一括)

<質疑>

<木曾委員>

①P23、京都学園大学との連携事業について、学園大学は京都へ一部移転する。

遅きに失した感がある。今後の見通しは。

②P36、生涯学習賞は基本的に廃止すべきと考える。市内の人ではないほとんどかかわりのない人に対する公金支出はもう少し慎重に考えるべきではないか。

<生涯学習部長>

①H23は特に環境バイオの学部と連携を密に事業を進めた。今後も亀岡市に残る環境バイオと連携して取り組んでいきたい。亀岡の水と緑を生かしていただける研究をしていただけるよう、また多くの学生に来ていただけるよう亀岡市としても最大の努力をしていきたい。

<市民協働課長>

②ご指摘のとおり、特に生涯学習大賞は市外の方ばかりであるが、S63の生涯学習都市宣言の基本構想の中から生まれた経過がある。今後、生涯学習かめおか財団の運営委員会と市理事者と調整し、対応策を考えていきたい。市民の方に賞をとい

う声は聞いているので市民向けの賞等考えていきたい。

<木曾委員>

①学園大学について、最近になって積極的になったがそれまで支援策はあまりなかったことは残念だという声を聞いている。地元大学としての考え方が希薄だったのでは。経済損失も含めて、出ていくとなると非常に大きな影響があるのではと心配している。生涯学習部だけではなく市全体として根本的に考えないと全部移転してしまうのではないかと心配する。考えは。

②人口93,000人の市が100万円を出す生涯学習賞を続けることが、市民の中に生涯学習が本当に根付くことにつながるのかどうか。見直しが要るのでは。

<生涯学習部長>

①学園大学への支援として本年度から、学校が出される合格者への案内に亀岡市の観光DVDと一緒に発送するなどして本市のPRをし、少しでも多くの学生に来てもらえるように対応している。学園大学とさらに連携を深めていきたい。

②亀岡市在住の方に賞が当たらないというのは大きな課題になっている。生涯学習都市亀岡を標榜する本市にとって名誉ある賞だという意識もある一方、地元になんら貢献していないという声もある中で奨励賞、共生賞を作り、亀岡市の自然に貢献いただいた方への表彰もしている。梅岩賞については高度な生涯学習の取り組みを皆さんに見聞きしていただくことによってさらに発展させていけるように常に見直ししながら進めていきたい。

<木曾委員>

学園大学の地元の曽我部町では多大の協力をいただいていたが、経済的なことも含めて大きな痛手を被っておられる。市として考えていく必要がある。それを忘れないようにしていってほしい。

<日高委員>

P35、ガレリアについて、先日利用したら冷房の関係で使用料が高かったと聞いたがどれだけの金額になるのか。指定管理者になってどれだけの収入があったか等全体的な収支決算のような一覧表を出されたい。

<堤委員長>

ガレリアに係る説明資料は出せるか。

<生涯学習部長>

後刻提出する。

<市民協働課長>

基本使用料に対して冷房は40%増し、暖房30%増し。

<西村委員>

①P24、学園大学との共同研究の中で「アカマツとマツタケの共生系成立の初期要因に関する研究」があるがもっと額を増やしてでもしっかりやっていただいて市の特産につなげて、大きな経済効果があるようにしてほしい。

②P26、友好交流について、蘇州市との最近の交流はどうか。

③P36、生涯学習賞だが受賞者の講演は貴重でいい。その時の参加者だけが聴いて終わりではなく何かのかたちで広げてもらえば意義ある金額だと思うがどうか。

<市民協働課長>

①アカマツについては追跡してやってもらうよう大学に要望する。

②蘇州市でも日系の商店がガラスを割られたり、略奪されたり的事件があった。現時点では具体的に亀岡に係るものが壊されたり、予定していたことを取りやめたりということはない。

③受賞者にはコレージュ・ド・カメオカで講演をいただいている。その講演は図録にし貸し出しもしている。その存在については皆様に紹介しアピールしていきたい。

<西村委員>

マツタケの件は要望する。

<並河委員>

P 2 5、女性の相談室の相談件数は2 3 8件だがその相談内容は。ゆうあいフォーラムでは女性登用の目標は5割と聞いているが、市の女性管理職の割合は。

<人権啓発課長>

一般相談は別居・離婚、夫婦間の暴力、近隣との人間関係が主なもの。フェミニストカウンセリングは精神的なものが多いが個人の生き方、悩み、別居・離婚、子供の関係。法律相談は別居・離婚は半分近くを占めている。市の係長級以上の女性職員の割合は3割ぐらい。審議会委員は逆に女性の多い審議会もあるが全体的に女性が少ない。ゆうあいステッププランでも最終目標は50%にしているが厳しい。

<並河委員>

行政として女性登用の数値目標は持っているか。

<人権啓発課長>

ある。ゆうあいステッププランに掲載しているが、今持っていない。27年度までに40%であったかと思う。

<中村委員>

①P 3 1、篠共同浴場について、オープンから20年ほど経過し老朽化しており、毎年修繕費が必要になっている。利用者も減っているが今後の考え方は。

②P 3 5、ガレリアについては1億円を超える支出で修繕もいるが、どんな計画を持っているのか。

<生涯学習部長>

①現在見直し作業も終盤に来ている。近いうちに条例の審議をお願いすることになると思う。

②あれだけの施設であるので修繕は必要になってくるが中長期的な営繕計画をもっている。壊れてからではなく、予防的にしていくことが重要。年度ごとに必要な修繕の予算査定を受けて予防を基本に今後も進めていく。今現在、ガレリアの中の見直しを進めている。

<中村委員>

ガレリアの駐車場はいつもいっぱいの状況である。料金徴収のシステム等の検討は。

<市民協働課長>

1日に2回警備員が常駐している車のナンバーを控えて移動の張り紙をし指導している。しかし、道の駅としての利用との仕分けも必要であるかと思う。日々の積み重ねが効果がある対応かと思う。駐車場の有料化については国土交通省の道の駅指定を受けており、その要件として休憩所、トイレ、駐車場設置がある。ただ指定を受けたのが平成10年なので14、5年が経過し町の形態も変わってきている。国土交通省には駐車場設置を可能にするにはどうすればいいか問い合わせし、設備投資に係る金額等勘案し検討していくことが必要かと思う。

<木曾委員>

①P 3 1、隣保館のあり方研究会の結論が出て久しいが、一向に前向きな話がない。天川文化センターは新しくなるがそれ以外の見通し、方向性は。

②ガレリア地下駐車場、施設に入るのに9時からでしか入れない。9時から使用しなければいけないのに9時にしか開けてもらえない。利用者が利用しやすいように

できないのか。

<生涯学習部長>

①中核館構想を示し取り組みを進めている。地元に出向き説明をしている。市役所内部でも窓口である人権啓発課、教育委員会人権教育課と人事当局、組織機構担当部署と課長レベルの会議を数回持ち、将来の取り組み、市の組織、人員配置、事務分担等検討している。今年度中には方向性を示していく中で天川文化センターの完成を足掛かりに進めていきたい。各種団体とも綿密に調整し進めていきたい。

<市民協働課長>

②8時45分の開館、9時からの使用で指定管理者である生涯学習財団とも合意が取れており、8月から実施していると思う。イベント等8時45分でも間に合わない時は裏の通用口等を利用いただく等利用者と調整している。

<齊藤副委員長>

先日は9時まで開けなかった。さらに9時までに入口の前で準備していたら、9時になって邪魔だからどくように言われた。課長の言ったことが伝わっていない。もう一度ガードマンに至るまで徹底されたい。チャペルの利用回数は。業務ごとの費用を資料で提出されたい。

<堤委員長>

先ほど要求した資料と合わせて提出されたい。

<田中委員>

①P24、学園大学との共同研究の成果品をどのように確認され、市にどのように役立っているのか。支出の基準は。

②P32、住宅新築資金等貸付事業管理組合の亀岡市分残高は。負担金の積算根拠は。

③歳入で事項別明細書のP49、同和更生資金貸付金滞納繰入金で5千円入っている。具体的にどのような事務がなされているのか。滞納分はいくらあるか。

<市民協働課長>

①報告書という成果物を作ってもらい、大学の支援センターで取りまとめて亀岡市に報告いただき、書類確認しそれに基づき支出している。個々どのように利用されどのように役立っているかは確認できていない。ただ、学内での発表会をしており、審査している。市民へのお知らせや活用の道筋は検討課題とさせていただく。

<人権啓発課長>

②事務負担金の根拠は組合で計算しているので今はわからない。23年度末債権残高は、96件、1億8,255万9,626円。

③調定額は194万8,940円。これは担当課で回収している。

(生涯学習部 退室)

～16:27

<堤委員長>

今日の審査はここまでとするが、事務局何か連絡はあるか。

<事務局>

明日の事務連絡

<木曾委員>

先ほどの人件費の説明は口頭でありわかりにくかった。委員長から指摘の上、人件費の資料を求める。

<堤委員長>

人件費の資料を求めることとする。
本日はこれで閉議する。

16：31 閉議